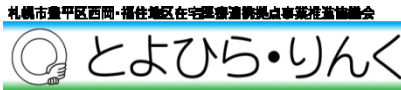


## とよひら・りんく NewsLetter

発行 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 「とよひら・りんく」事務局



公益財団法人在宅医療助成  
勇美記念財団 助成による

## 平成29年度 第2回りんく塾を開催

平成 29 年 9 月 25 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00 (豊平区民センター)

平成 29 年度、第 2 回りんく塾を開催いたしました。

医療・介護関係者等、55 名が参加されました。

## 「調剤薬局薬剤師における ACP 導入の課題」

西岡メディカル薬局 管理薬剤師 上田 直人 先生

調剤薬局薬剤師の視点から ACP 導入の課題について、実際の事例を用いて説明をしていただきました。

ACP 導入における課題として

1. 情報共有について
  - 1) 報告様式の統一、フォーマットの統一
  - 2) 情報のフィードバックと共有方法
2. 地域連携の中での調剤薬局の役割→多職種連携への参画
3. 訪問する薬剤師のコミュニケーションスキルの向上

以上 3 点をあげられて、お話しをされていました。



## アンケート結果 (一部)

- ・訪問薬剤師の中でも ACP が必要とされていることがわかりました (医療機関・医師)。
- ・薬剤師の立場で ACP 相談に加わることはとても重要だと感じました (医療機関・医師)。
- ・薬剤師の訪問場面での関わりについて知ることができました (医療機関・看護師)。
- ・薬剤師が求めている情報がわかりました (医療機関・看護師)。
- ・発展途上でしょうか。もっと ACP を進めていることを知らせて欲しいです (医療機関・看護師)。
- ・薬剤師の ACP で行っていく内容について知ることができました (グループホーム・管理者)。
- ・薬剤師の活動がわかりました (介護支援専門員)。
- ・薬剤師側の状況が理解できました (介護支援専門員)。
- ・薬剤師の取り組み、課題について理解ができました (地域包括支援センター)。
- ・難しいテーマであるので、多職種の話聞き理解を深めていきたい (有料老人ホーム・管理者)。

## 【用語解説】ACP「アドバンス・ケア・プランニング」

今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス。

- 患者が望めば、家族や友人とともに行われる。
- 患者が同意のもと、話し合いの結果が記述され、定期的に見直され、ケアにかかわる人々の間で共有されることが望ましい。
- ACP の話し合いは次の内容を含む。
  - ・ 患者本人の気がかりや意向
  - ・ 患者の価値観や目標
  - ・ 病状や予後の理解
  - ・ 治療や療養に関する意向や選好、その提供体制

(参考 : E-FIELD 平成 27 年度人生の最終段階における医療体制整備事業 研修会 資料)

## ACP 導入研修の進め方(初級編)

厚生労働省 平成 26. 27 年度 人生の最終段階における医療体制整備事業の研修プログラム (E-FIELD) を参考にした内容を取り組みました。参加者全員でロールプレイを行いました。

(<http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/eol/kensyu/soudan27/siryu.html>)

ロールプレイも「在宅事業所編」「介護施設編」「病院編」を作成し、今後、各事業所でも取り組めるようにしました。

**本研修内容はホームページに公開を行いましたので、今後、各事業所の職員研修で活用いただければと思います。→療養支援ページ**



### アンケート結果 (一部)

- ・ロールプレイは効果があると思いました (医療機関・医師)。
- ・スタッフに広げていきたい (医療機関・看護師)。
- ・ロールプレイで実際の場面を想定できました (医療機関・看護師)。
- ・ロールプレイは難しい (調剤薬局・薬剤師)。
- ・DNA Rをとるだけでない、そこまでのプロセスが大切であること。それがACPであることをあらためて理解しました (医療機関・医療ソーシャルワーカー)。
- ・施設内でも今後このような勉強会ができればと思いました。しかし情報共有方法を考えれば記録は多くなり、共有ができないという感じになってしまうと思いました (グループホーム・管理者)。

## グループワーク「ACPを進める上での課題」

最後に「とよひら・りんく」恒例のグループワークを行いました。

下記のような意見 (一部) が出ました。

- ・ACPをつなげるツールをどう作るかが大切だと思いました (医療機関・医師)。
- ・多機関の情報を聞き、自施設だけではなく、同じ課題を抱えていることがわかりました (医療機関・看護師)。
- ・具体的な演習はやはり一番の勉強になると思う (医療機関・看護師)。
- ・ACPはどういうことなのか、まずスタッフが理解し、関わる必要があると思いました (介護施設・看護師)。



### 「日本の医療におけるACPのアプローチ」 ACP研究会 第2回年次大会 「日本の医療におけるACPのアプローチ」

本年9月2日(土)愛知県名古屋市の愛知県芸術文化センターで、ACP研究会第2回年次大会を開催されました。

今回の年次大会は当会の五十嵐知文会長が大会長として運営に関わりました。

ホームページ:[http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/acp\\_hp/acp\\_meeting2/index.html](http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/acp_hp/acp_meeting2/index.html)

医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員など様々な職種からのACPアプローチ、急性期病院、地域の病院、在宅診療所など多機関からのACPアプローチ、様々な発表がありました。

次年度も開催が内定しました。いつか札幌開催を実現させたいものです…。



### 合同会議・りんく塾 年間スケジュール (予定)

2017年11月27日(月) 第3回りんく塾 在宅医療における情報共有の課題、グループワーク

2018年1月29日(月) 第4回りんく塾 実践報告「意思決定に関わる情報共有の在り方」

3月26日(月) 合同会議

とよひら・りんく事務局 西岡病院 地域連携室 岡村・田附・横田 ホームページ:<http://www.toyohiralink.jp/>

電話 011-853-8322(平日 9-17時) メールアドレス:[info@toyohiralink.jp](mailto:info@toyohiralink.jp)